



三本桜

第12号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
6月の目標：規則正しい生活をしよう

ありがとう

ある学級で子どもたちに、言葉のもつ力について話をした後に、子どもたちに「ありがとう」の反対の言葉を聞きました。いろいろな答えが返ってきましたが、なかなか難しく正解は出てきませんでした。

「ありがとう」の本来の意味は「有り難しであること」「あることがめったにないこと」「めったにないことなので感謝の気持ちがわいてくること」などを伝え、その上で反対の言葉は「あたりまえ」とであると伝えました。

家に帰ってからの夕食を作ってもらっていることも、「あたりまえ」だと思っていると何も感謝の気持ちは出てきません。しかし、感謝の気持ちがあると「ありがとう」という言葉が出てくることを例に出し、毎日周りの人からしてもらっていることも「あたりまえ」と思っていると何も言葉が出てきませんが、「めったにないこと」と思うと「ありがとう」という言葉が自然と出てくる、そして「ありがとう」の言葉を聞いた方もとても気持ちが良くなり、また何かしてあげようと思うようになる、そんな魔法のような言葉が「ありがとう」という言葉であると子どもたちに伝えました。

「ありがとう」という言葉が子どもや大人から、ごく自然にいろんな場面で聞こえるようなそんな学校にしていきたいと思っています。



令和8年度の緑の学校及び秋の遠足について

ご承知のように、来年度は愛知県で、第20回アジア競技大会、第5回アジアパラ競技大会が実施される予定です。そして、このアジア・アジアパラ競技大会には、選手や関係者などあわせて3万人が参加する見通しであり、移動に必要な大型バスを多く確保する必要があります。そのため、この期間を含む2026年9月5日から10月26日までについて、愛知県と名古屋市は小中学校などに対し、修学旅行や遠足などと重ならないように調整を求める通知を出しました。

実際に、いくつかの旅行業者へ問い合わせたところ、バスの確保が困難であるとの回答を得ました。そこで、これまで9月、10月に実施していた緑の学校及び秋の遠足の実施時期を見直します。詳細が決まりましたら、保護者の皆様には改めて連絡いたします。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

田植え（5年生）

12日（木）、5年生が高取児童農園で田植えの体験をしました。この体験は、5年生が社会科で、日本の米づくりや農業について学習することに合わせて行っています。昨年続き、地域の人々の協力・指導の下、子どもたちはうるち米「あいちのかおり」の苗を植えました。

子どもたちの大半は、田植えを行うのは初めてでした。水が張られた田んぼを前に興味津々な様子で田んぼをのぞきこんでいました。地域の人から苗の植え方を教わった後、不安そうな表情で田んぼに入った子どもたちは、「うわ〜」「きゃ〜」「足がはまって抜けない」「ぬるぬるする」と大はしゃぎ。泥だらけの手で、田んぼに張られたロープの等間隔の印に合わせて丁寧に苗を植えていきました。田んぼにはほどなく緑の小さな苗が整然と並びました。

体験後の子どもたちは、「楽しかった」「前屈みで腰が痛くなってきたけれど、最後までやりきった」「とてもいい経験になった」「水の中は気持ちよかった。また、やりたい」と話し、田植え体験を楽しむことができました。秋には稲刈りを体験します。子どもたちには、田植え体験をきっかけに、日本の米づくりや農業のこと、食糧問題のことを更に深く学んでほしいと願っています。

最後に、お忙しい中、子どもたちのために駆けつけてくださいました保護者の皆様、ありがとうございました。

